



TITLE:

經濟界不安の繼續

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 經濟界不安の繼續. 經濟論叢 1920, 11(2): 218-238

ISSUE DATE:

1920-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/127688>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第二號

第十卷

論 說

德川時代の税制……………法學博士 瀧本 誠一

基礎社會の發達方向(一)……………文學士 高田 保馬

租税の限度に就きて(二・完)……………法學博士 神戸 正雄

鎌倉時代の家族制度(七・完)……………文學博士 三浦 周行

マルクスの勞働價值論の根本命題(一)經濟學士 堀 經 夫

時事問題

經濟界不安の繼續……………法學博士 戸田 海市

超過所得税論……………法學博士 小川 郷太郎

雜 錄

現代支那に於ける社會上の一缺陷……………文學士 小島 祐馬

收穫遞増減の諸觀點……………法學士 石川 興二

ラレーの「和蘭貿易に關する考察」……………法學士 山口 正太郎

近刊の經濟史に關する三著述……………法學士 本庄 榮治郎

時事問題

經濟界不安の繼續

戸 田 海 市

一、當業者の努力の不十分

去四月恐慌發生以來我經濟界は不安狀態を繼續し恐慌の起ると同時に休止せられたる生産取引にして、之に對する需用の殆んど確實に期待せらるゝものまでも今尙ほ活動を開始せざる場合が頗る多い。從來世界經濟の中心を爲した歐洲諸國の經濟的恢復の困難なるに伴ふて、今や世界一般が徐々に不景氣時代に進みつゝあるか、若し我經濟界か今日の如き不安狀態を更に繼續するときは、遂に我經濟界は一時的又は中間的安定をも生するに至らず、世界に先んじて不景氣の底に沈むことゝなるかも知れぬ。本誌前々號に論せし如く昨年來の我が好景氣の根原を爲せしものは、戰時中に於けるか如く外國市場の旺盛なる需用ではなくて國內市場の需用であり、更に國內需用の最大原因を爲せしものは、未曾有の豐作となりし米が特に高價を維持した爲めに農民の購

買力が非常に増進したことである。恐慌發生以來重要商品の一般に暴落したるに反して米價下落の程度は遙かに低く、從つて暴落したる諸商品に對する農民の購買力は依然として強い筈である。又英米經濟界の多少の動搖及銀相場の暴落は外國市場を惡化せしめたか、併し世界市場全體の狀況は固より我國ほどに惡化して居らず、特に昨年下半年以來我が輸出は數量に於て減退しつつあつたから、其生産も早くより收縮に傾き、今日は特に生産過剩に陥つて居るものもない。此の如く内外市場の需用に關する客觀的状態は我經濟界をして中間的安定を得せしむることを不能ならしむる如く惡化して居らぬ。併し此安定を生ずるか爲めには需用に關する客觀的條件が備はるのみならず、一般商工業者の側にも安定を生ぜしむる主觀的能力が存在することを要し、特に其安定的努力の決意が鞏固でなくてはならぬのであるか、不幸にして此決意が甚だ不十分である。彼等が過去に於て過度の樂觀に耽り、無謀に信用取引を擴張した爲め、今日は反動的の悲觀も過度に陥り、又無謀なる擴張の失敗に由り各自の財力が非常に弱められて信用を恢復することも實際に甚だ困難となつて居ることは争はれないか、併し一方には各實業家が自己の卑近の利害に没頭して相互の信用を破壊し、全體の利益の爲めに協力する精神の甚だ缺乏して居ることか、今日の如き不安状態を繼續せしむる重大原因である。

經濟界の不安が繼續するに從つて彼の最先に休業狀態に陥れる内地向き織物業が未だ殆んど冬

物製織を初めざるのみならず、他の諸事業に於ても次第に失業増加を生じつゝある。目下は恰も農繁期であるから失敗者の一大部分は歸農に由り落着きつゝあるか、併し失業が更に増加すれば政府及自治體の事業を擴張して之を收容することを必要とするに至るであらう。只た公共事業の擴張には自から制限があり、加ふるに其事業の主なる部分は土木工事であるから、其の需用する勞働者の種類も局限せられ、雜多の失業者を直接間接に收容することか困難である。故に此際速かに經濟界の不安を除て生産取引を恢復し、以て失業の發生を豫防するの緊要なるは論を待たず。今日の如く産業私營の認めらるゝ時代に於て、各企業者は其事業の經營に付き社會に對して重大の責任を有する者であるか、一般勞働者をして職業を失はしめざることは、其責任の最も基本的のものである。固より目下の如く一般實業家の資力信用の根底より動搖しつゝあるに際し、經濟界を安定せしむるには甚大の努力を必要とし、其方法としては先づ各種事業に於て同業者の協力に由り全體の信用を恢復することを急務とする。今日までに實業界の諸方面より政府に對して救済を請ひたる金額は既に四十餘億に達すると云ふことであるか、當業者が鞏固に團結して信用の基礎を作らされは外部より救済を與ふことも不能である。好景氣の時代には當業者が濫りに信用を授受して無謀の擴張を爲すことに協力したるに反し、今日は互に最小限度の協力をも拒んで各自の信用の毀損を益甚しからしめ、以て共倒れの運命に急きつゝあるか如きは實に醜態と

云はねはならぬ。

二 先物取引解合及取引所組織問題

經濟界安定のため當業者の爲すべき協力は先づ商品暴落により過去に行はれたる取引の決済が不能となつた爲め、一般當業者が活動不能の狀態に陥つて居ることに對して救済方法を立てることであるか、其の中で最も重大なるものは綿糸布等の先物取引に關する總解合の問題である。當業者間に於て此解合の進捗せざるは、根本より解合を否認するか爲めてはなく、解合條件の折れ合はざるか爲めてある。如何なる條件が適當なるやは局外より判斷することか困難であるか、世間には總解合其物に反對し、之を以て商業道德を破壊するものであると批難する論者が少なくない。併し先物取引に付ては總解合を行ふの外に當業者一般をして活動不能狀態より脱出せしむる方法がないのであるから、速かに之を實行して生産取引の恢復を圖り、失業の増加を防止することか當業者の責任である。重要な大量商品に付き戰時中より盛んとなれる仲間先物取引なるものは甚だ不健全なる取引方法であり、現に此取引が取引所法違反とならざるやに付ては今尙は裁判上の係争問題とせられて居るのであつて、今後は決して之を復活せしめてはならぬ。此取引の性質に付て世人の理解が甚だ不十分であることか、上述の如き總解合批難論を生ずる原因となり、

又總解合談の不進捗に對する輿論の勵督の甚た不熱心なる原因であるから、茲に簡單に其性質に付て一言したい。此取引は大正六年頃に先づ關西方面より盛んとなり、之を行ふ者は大量商品を取扱ふ所の卸賣業者である、即ち我商業界に於て最も高き地位を有する有力の商人であつて、彼の世人より常に信用を疑はれて居る取引所仲買人の如き者とは大に異つて居る。此等の有力なる商人が互に信用取引を盛んに行ふことは當然であるか、併し本來卸賣商業なるものは現物を取扱ふて確實に口錢を收むる直接配給を本務とするものである。然るに彼等は専門の取引所投機商人たる仲買人が定期取引を行ふと同様に、差金收得の目的を以て仲間同志の間に互に先物の轉々賣買を行ひ、特に取引所に於ても認められざるか如き半年以上一年以上の危険極まる長期の取引を行ひ、而も専門の投機商人が行ふ所の取引所の賣買には一々證據金を提供して取引を確實ならしむるの方法が備はれるに反し、健實を旨とすへき此等有力の卸賣商人の先物取引には之を確實ならしむる何等の方法をも設けず、平氣で危険極まる投機取引を盛んに行ふた。此の如き無節制なる投機取引も商界の最有力者に由て行はるゝか爲めに實際世間の相場を左右し、同種商品に關する取引所の公定相場は常に其惡影響を蒙むつて居る。此の如き亂暴なる仲間先物取引は假令へ取引所外に於て定期取引を行ふこれと禁止する取引所法の規定に對し、形式的には違反とならずとするも精神上には明かに違法である。當時予輩は本誌に於て(大正七年二月及三月號)仲間先物取

引に對する取締りの必要を論じて世間の注意を促かし、其後政府も之が取締りに手を下たすに至つたか、營業者は巧みに形式上取引所法違反となるか如き方法を避けて依然之を盛んに行ふて居た。戰時及戰後の投機取引の中心を爲し、遂に今日の如き恐慌を生せしめたことに付て仲間先物取引は其責を免るゝを得ない。

世人は取引所に於ける専門の投機取引と一般の卸賣取引との當然の分業を無視し卸賣業者が定期取引と性質を同ふする仲間先物取引を行ふことを以て、時勢の進歩に伴ふ商業組織の變遷であると思ふの傾かあつたか、是れ實に着實なる現物商業を盡く投機化して商業を墮落せしむるものである。此先物取引が無節制に相場を攪亂して取引所の公定相場に惡影響を及ぼしたことは前述の如くであるか、更に相場の激變に由る市場混亂の跡始末に由て見ても、取引所に於ては速かに解合を行ふて相場を安定せしめ、新なる相場の下に取引を進行せしむるを常とする。然るに専門投機者よりも遙かに大膽無謀の先物取引を行ひたる第一流の卸賣商人は經濟界の不安と諸事業の休止と失業者の増加とを顧みず、各自の小利害に没頭して容易に解合を行はない。是れ實に素人の賭博はご始末の悪いものはないと言ふ俚諺を證明するに外ならぬ醜態である。要するに仲間先物取引なるものは今後決して復活せしめてはならぬ。卸商業が其本務たる現物配給事業を保險する爲めに定期取引を行ふの必要を感ずる場合には、須らく正式に取引所市場に於ける定期取引

を利用すへきてある。又取引所が實業家の利用に不便であるならば宜しく取引所を改善すへきてある。

戰爭中より營業税法の苛酷を最も強く主張した者は、仲間先物取引を盛に行ふ種類の卸賣業に屬する巨商連中である。取引所の投機取引は微細の相場變動を豫想すれば忽ち轉々賣買を行ひ、之に由て相場の激變を豫防するの作用を爲すへきものである、而も其賣買より生ずる損益が甚た不定のものであるから、定期取引に對する取引税を低率に定めてゐるのは當然であるか、卸賣商業は現物を授受して確實に口錢を收むることを本務とするものであるから、其實上金額に對する營業税率は取引所の定期取引に對する税率よりも高く定めてゐることも當然である。現行の營業税法には種々の缺點もあるか、卸賣商人が専門投機商人の領分に屬する先物取引を行ふに不利なるか爲めに營業税の苛酷を訴ふるは不當である。曾て予輩の注意した如く戰爭以來營業税法が先物取引を盛んに行ふ所の卸賣業に對して嚴正に執行せられて居たならば、先物取引の弊害が餘程制限せられ、從つて今回の恐慌も亦餘程緩和せられたであらう。若し今後再び仲間先物取引が跋扈するに至れば特に之に對して營業税法の嚴正なる執行を要求せざるを得ない。

投機の跋扈が今回の恐慌の原因である。故に世人は投機の弊風を防ぐか爲に先づ投機取引を本務とする所の取引所の改善に注意を向け、特に多年の問題となれる取引所の組織即ち現行の株式

會社組織と會員組織との何れか適當なりやを考へるに至つたやうである。取引所に關する此根本問題の研究に對して、戰爭以來の仲間先物取引は重要な參考材料を與へたものである。此取引は一定の商人が團體を組織して先物に付き定期的取引を相對に行ふものであるから、其實質は會員組織の取引所取引に外ならぬ。又之を行ふ商人は何れも大量商品を取扱ふ所の有力なる卸賣商人であるから、取引所組織者として理想的の者と見ねはならぬ。故に其取引が適法なると違法なるとを問はず、戰爭以來彼等が盛んに之を行ふに至つたことは、實に我國に會員組織の取引所が適當なりや否やの疑問に對し適切なる實驗を供したものと云はねはならぬ。予輩は常に此觀點より先物取引の經過をば、取引所に於ける同種商品の定期取引の經過と比較して研究しつゝあつたのであるか、不幸にして先物取引は取引所の定期に比して遙かに無節制なものであつた。世人は現行の取引所制度の要點か取引の履行を擔保することに在りと認め、從つて此制度を強制的の擔保制度又は取引保險制度と稱するを常とする。然るに予輩が本誌其他に於て屢論した如く投機取引の履行に付ては、到底生命保險や種々の損害保險の如く確實に保險し得るものでない。故に取引所の保險作用を強める爲め盛んに増資を行ふことも不當である。現行制度の中心的作用は寧ろ營業者に賣買證據金の提供を強制することに由り、其取引の不健實なることを防ぐに在るから、此制度は之を強制的證據金制度と稱するを適當とする。證據金徴收の上で取引所が擔保を行ふこ

とは、之に比すれば第二次の意義を有するものと云はねはならぬ。従つて取引所の最も努力すべき點は證據金制度を適當に運用することであつて、増資に由り擔保資金の充實を圖ることではない。歐米の取引所の實質は概ね會員組織又は之に近い性質のものであるが、其仲買人が各自に客より注文を引受くるに方つては、法の要求なきに係はらず略は我現行制度の下に行はるゝか如き賣買證據金を客より徴收して取引を健實ならしむることに努めて居る。然るに我國に於ては平素取引所商人を眼下に見下すか如き第一流の卸賣商人が無證據金にて危險極まる長期の取引を平氣で行ひ、又之を行ふ目的は其本務たる物資の配給事業に便宜を與ふることなく、一に差金の收得に存するの事實に注意するときは、我國に於て汎く會員組織を行ふの時機尙早なることを感ぜざるを得ない。固より現行制度の改善を要する點は多々あるか、強制的證據金の原則は當分之を廢止するを得ない。

三 當業者の積極的協力

經濟界安定の爲め當業者の爲すべき協力方法として先約解合の如く過去の取引より起る當業者一般の困難を緩和することは寧ろ消極的性質を有するものである。幸にして外部の狀況が經濟界の恢復を促かすに好都合に開展して來れば當業者の協力は此消極的方面に止めても差支ないか

も知れぬ。最近に諸商品に對する需用が徐ろに復起し、其相場も一時の恐慌相場より餘程恢復しつゝあるか、併し需用の復起が捗々しくないと不安に襲はれて居る市場が再び崩落を生ずることとなるかも知れぬ。此の如き崩落が起れば需用者は益需用を延期し縮小するから市場の動搖も更に甚しくなる。特に此の如き不安の爲めに諸事業が休止して其從業者の所得の喪失が永く續くときは一般購買力の上に大なる減退を生じ、容易に恢復するを得ざる眞の不景氣に陥らねばならぬ故に當業者は經濟界を安定せしむる爲め更に積極的に價格安定の協力を爲さねばならぬ。固より熱狂時代の相場は當時の世界平均に近しと見るべき米國の物價より三四割も高く、獨り生産費に比して不當に高きのみならず、一般消費者の購買力に對しても不當に高かつたから、今日は充分に之を引下けて内外の購買力に適合せしむるを必要とし、決して熱狂時代の相場の復活を夢みてはならぬ。今日は既に歐米の市場も幾分惡化し、又銀相場も暴落して東洋南洋の購買力も減退したるのみならず、恐慌の爲めに國內の購買力も減退して居るから、諸物價をして恐慌時代の底直より少しく上位を保つ程度に之を安定せしむることか安全である。又眞に生産過剰となれる商品に付ては生産費の如何を問はず充分に相場を引下けて之を處分することか多大の困難と費用とを忍びて相場の維持に努むるよりも利益である。併し乍ら相當の購買力の存するに係はらず當業者か恐慌を起し、互に先を爭ふて投賣を爲すときは内外需用者は更に下落するを待て需用せんとするか

ら、需用が益減退し、之が爲め當業者は共倒れとなつて後日の生産取引の恢復を甚だ困難ならしめる。

歐米に於ても一般の生産取引が小規模に行はれた時代には好景氣の際に無謀なる競争的膨脹が行はるゝに反し、一旦人氣が沈衰に向ふときは非常なる恐慌を生じて資本の消失と失業とを甚しからしめ、従つて景氣の恢復も頗る遅々たるを免れなかつたか、轉近一般の事業が大規模に集中經營せらるゝに及び、好景氣の際に無謀なる競争的膨脹が緩和せらるゝと同時に恐慌不景氣の慘害も緩和せられ、景氣恢復の時期も早まるの傾向を示して來た。我國に於ても近來一般商工業が次第に集中的傾向を示し、特に戦争以來の好景氣に乗じて以前より存在せし基礎確實の諸事業は著しく其規模を擴張することを得たか、之と同時に新事業の發生も頗る多くなり、其の多數は尙ほ小規模のものである。特に昨年來の特別の好景氣に乗じて起つた事業は需用の雜多不整一なる内地市場を相手とするものであるから、規模細小のものか甚だ多い。此の如く資力薄弱なる小企業の多數に存在することが目下の經濟界の不安を甚しからしむる一大原因である。此等の小企業者に對して共同團結に由る安定的努力を要求することは固より困難であるか、相當の大規模經營の行はるゝ事業に在ても積極的協力の甚だ不充分なることは、當業者の怠慢と云はねはならぬ。

經濟界を安定せしむる爲め當業者が積極的に協力すべき事柄として重要なるは先づ其共同の信用に由て資金の融通を仰ぎ同業者間に於て生産費より見るも又一般購買力の程度より見るも不當に低き相場を以てする投賣の競ひ起ることを防ぎ、販賣に付ては成るべく一致の步調を採り、出來得べくは共同販賣の方法に由て販賣を統一的行ひ、一面に相場の維持に必要なときは一致して生産輸入仕入れの制限をも行ふことである。此の如き協力を重要原料に付て行ふことは經濟界の安定に最も有效であると同時に、重要原料に付ては割合に此種の協力が行はれ易き事情がある。今日の如く享樂的製品に對する世間の需用が相當に存在することの豫想せらるゝ場合に於ても、其重要原料の相場に前途崩落の危險多しと見るときは、生産者は原料を仕入れて製造を初めることか出来ない。例へば今回最大の打撃を蒙られる内地向き織物業に付て見るも、例年の此頃は冬物の製織か餘ほど進行して居る。本年も冬物の需用が相當に存在すべしとは一般に豫想せらるゝ所であるか、重要原料たる綿糸生糸の相場が前途崩落の危險少なからずと信しらるゝ爲め織物業者は原料の仕入れを一日一日遷延して徒らに其相場の安定を待ち、従つて多數の失業職工の生活も一日一日と窮迫に陥りつゝある、此の如く重要原料を安定せしむることは一般の生産取引の恢復に必要な事柄であるか、同時に重要原料生産は通例小數の大企業に由て集中的に生産せられ、又其生産が割合分散的に行はるゝ場合にも之か取引は集中的に有力商人の手に集中せらる

る場合が多く、精製事業の如く多數の小企業に分裂して居らぬから、同業者間の協議が纏まり易く、又其資力信用の強き爲め有効に協力を行ふに必要な資金の融通を共同して得ることも容易である。

四 政府の積極的干涉の當否

最近重要商品の相場が一時の恐慌相場より漸々恢復しつゝあるが若しも不幸にして再び崩落を來たし、而も當業者の間に有効の安定的協力も成立せざる場合が起つたとすれば、政府は從來の如き區々たる金融上の救済に努力する外に、重要商品就中重要原料に付ては政府自から當業者に代つて安定的方法を講ずることを必要とせざるやの問題が起る。此場合に政府の行ふべき安定的方法は必しも一に止まらぬ。或商品の生産販賣に付き政府が全權を以て之を管理し、特に適當と認むる最低價格を定めて販賣を統一的に行はしめ、又各企業の生産量の増減を左右して此最低價格の維持に努むると同時に、國內販賣に付ては少くとも生産費相當以上に騰貴することを防ぐ爲め適度に其輸出と國內販賣との割合を決定するか如きも一方法である。此の如き管理方法は其事業が可なり大規模に經營せられて居る場合に實行し易い。又政府の干涉を最低價格の保障に止め、例へば政府が適當の最低價格を定めて當業者の要求に應じ商品擔保にて其最低價格に相當する資

金を直接に貸付け、又は直接貸付の代りに擔保商品の提供に對して貸付證券即ち一種の流動公債を交付し、一般金融事業者をして此貸付證券に對し貸出を行ふことを容易ならしむる爲め中央銀行に命じて其再割引に特別の便宜を與へしむるか如きも一方法である。此方法は生産取引か多數の小企業に由て分散的に行はるゝ場合にも實行し得るものである。今日は實業界の何れの方面にも資金缺乏か訴へられて居るか、實際金融市場に活用し得べき資金が甚しく減少して居るのではなく、一般實業家の信用の減退せるか爲め金融業者が安心して融通を爲すを得ないのである。故に最低價格保障の方法として政府が直接に貸付を行ふよりも貸付證券を發行し、之に由て金融界に存在する不活動の資金を動員することを得策とする。此最低價格保障の場合に於ても政府は一方に價格維持に必要と認むるときは生産制限を命ずるの權限を有することを要するのみならず、國內市場に於て不當の騰貴を生ずることを防く爲めに輸出制限を行ひ、又必要の場合には擔保商品を國內市場に處分するの權限を有たねはならぬ。從來政府は物價暴騰の際に之を調節を怠つて一般消費者に不利を與へたから、物價崩落の際に政府が自から調節作用を行ふに付ては、必らずや消費者の利益を保護するの責任を負はねはならぬ。故に若し政府の最低價格保障作用に由り生産費相當以上に價格が恢復するに至れば、少くとも國內販賣に付ては之を適度に抑制するの手段を採らねはならぬ。

此の如き政府の立ち入りたる調節的干涉の要否か先づ問題となるのは我工業に取つて最も重要な原料たる綿糸及生糸の二者に付てゝある。此中綿糸は有力なる紡績會社に由て集中的に生産せられ、此等の會社は平素より一種の企業聯合を組織して價格調節を行ひ來つたのであつて、今日も充分に價格安定の實力を有して居る。只だ綿糸相場が今日の如く不安を脱し得ざるは其原料たる棉花相場の甚しく不安定なるか爲めてはなく、主に綿糸商の間及綿糸商と紡績會社との間に於ける先約解合の遷延せるか爲め、特に此解合の未決なるより紡績會社が自由に生産制限の決意を公表し難き事情の存する爲めてある。故に綿糸に付ては固より當業者が安定的努力を爲すの責任を有し、政府は左まで立ち入つて援助を行ふの必要なく、只だ輸出制限の規定を適當に運用して其國內價格の不當の騰貴を防ぐことに注意すべきである。更に生糸に付て見るに製糸業は本來綿糸紡績業の如く集中的のもてないか、併し近來製糸業にも漸々集中的傾向が現はれて戦争以來特に其勢が強く、今日其産額の過半は比較的大規模の事業に由て支配せられて居る。特に生糸相場を左右する所の輸出取引は夙に集中的の大商業に由て經營せられて居る。故に此等大規模の商工業者か誠意協力すれば、全體の糸價を支配することが敢て困難でない。生糸の大部分は外國市場特に米國に販賣せらるゝものであるから、我國の力に由て其價を安定せしむることは一見困難のやうであるか、併し世界市場に對する生糸供給の過半は我國の輸出より成り、特に生糸需用の

中心たる米國市場の供給の七八割は我國の生糸より成るものであるから、我國が適當に生糸相場を引下けて之を維持し、更に之を崩落せしめざるの努力を爲すときは、外國需用者は安心して取引することか出来るのである。今日の海外需用の不振は我生糸相場の高きか爲めてはなく、其不安定なるか爲めてある

好景氣時代に政府が物價暴騰に對する調節を怠り遂に今日の如き經濟界の混亂を生ぜしむるに至つた責を免るゝを得ざるは明かであるか、併し目下の經濟界安定策として政府が各方面の當業者に對し團結協力すべきことを勧め、鞏固の團結が成立すれば政府は之に對して適當なる金融上の援助を爲すを辭せずと聲明したのは至極穩當な處置である。然るに當業者が各自の小利害に没頭して安定的協力を爲さず、更に立ち入りたる救済を政府に求むること今日の如くなるときは、是れ好景氣時代に適當に事業を經營するの能力なくして今日の如き失態を演出したる一般實業家か、更に不況時代に於ても事業經營者たるの能力を缺くことを告白するものに外ならぬ。彼等にして此告白を敢てせんとするならば、須らく其事業を投げ出して之を政府に一任し、自から事業經營者たるの地位より退くべきである。彼等が自己の當然の責務を怠つて政府の救済に依頼せんとする以上は、若し政府の救済が功を奏して經濟界が安定した曉には、我國の輿論は必らずや更に彼等の權利と利益とに大なる制限を加ふべきことを要求するに至るであらうか、彼等は固より

此當然の要求を拒むを得ない。若し彼等にして平時に成るべく其自主的地位を保たんとするならば此際更に眞面目に安定的努力を爲さねはならぬ。一面には今日の政府も決して複雑なる調節的干涉を適切に行ふの能力を有するものでなく、従つて其干涉は却つて目下の不安定を長引かしめ、景氣の恢復を妨ぐるの危険がある。今日政府は比較的簡易なる規律立つた大規模の交通通信等の事業を経営するに付ても多くの缺點を示し、特に其労働者の待遇に付ても甚た時勢後れの感なきを得ない。故に政府が今日苦境に陥れる民業の管理を引受けて甚た複雑なる内外市場の關係や勞資の關係を適切に指導することの困難なるは明かであるか、更に一層簡易なる最低價格保障の立法を行ふに付ても干涉策の成功を危ふまざるを得ざる點か少くない。例へば政府が生糸の相場を安定せしめんとすれば、必らずや同時に製糸業の買入、繭の相場にも又場合に由ては其生産にまでも干涉せねはならぬのであるか、工業家の製糸と農民の養蠶との間の利害の衝突を適當に調和することは決して容易でない。又一體に此種の干涉策を行ふに方り、政府は一旦決定したる最低價の維持に失敗するの危険を防ぐ爲め其價格を大に低くするの必要を感するであらうか、政府の決定した價格は國內市場に於ては勿論外國市場に對しても自然に標準となるの勢を示して無益に價格の恢復を抑へ、以て其生産に従事する企業者労働者に損失を蒙らしむることかないとは云はれない。故に此際經濟界を安定せしむるの策としては政府の既に聲明したるか如く營業者の

自衛的協力を促かし、政府は此協力的運動を有效ならしむるか如く間接の援助を爲すに止むべきである。

五 公債募集及所得稅法改正の當否

本論の眼目は經濟界安定の爲めに當業者の盡すべき消極的及積極的の責任を明にすることであるが、既に此見地よりして政府の積極的救済の當否の問題に觸れたから、更に其消極的方面即ち經濟界安定の爲め此際政府が公債募集と所得稅改正とを中止するの必要ありや否やの問題に付ても一言する。募債及増稅を批難する論者の中には、之に由る増收の目的たる軍備擴張、西比利亞駐兵等の事業を不當として反對する者もあるが、茲に論せんとする所は此の如き費途の當否より出發せず、單に募債又は増稅が經濟界の安定を妨ぐることを理由とする反對論に付てゝある。先づ公債募集反對論に付て見るに恐慌の初期に於て公債償還を要求する聲が一部に起つた。此償還は非募債よりも恐慌を緩和する效力の大なるは明かである。併し主なる公債所有階級と恐慌に襲はれたる活動的の實業家階級とは必しも同一でなく、従つて政府が一定の資金を民間に散布することゝすれば、公債償還よりも寧ろ之を危竊に陥れる金融其他の事業方面の救済に充つる方が、救済策としては遙かに適切である。故に時局安定策として公債償還に幾分の效力があるとしても之に大なる價值を認むるを得ないのであるか、非募債に至ては更に其價值を認め難い。企業が活

發て金融の繁忙なる際に政府が相當巨額の募債計畫を發表するときは、事業計畫の前途に壓迫を感ぜしむることは事實であるか、今日政府が一三億の募債計畫を發表したからとて、之が爲めに人心の不安が益甚しくなると云ふか如きは餘りに事實に反する。募債計畫を立てると云ふも目下直ちに金融界より資金を引上げると云ふのではなく、年度内に於て適當の時機を見て之を實行すると云ふのである。通例恐慌の起つた後相當の時日を経過すれば諸事業の不振となれると同時に、金融界が資金の過剰に苦しむに至るを常とするは周知の事實である。加之不景氣の爲めに失業者が増加するときは種々の公共事業を擴張して直接間接に失業者救濟を行ふことを必要とする。不景氣の際には公債の利子も安く、物資購入も低廉に行ひ得るから今後の財政策としては好景氣の際に公共事業を差控へて不景氣の際に之を擴張し、以て一國の資本勞働を成るべく平均に活用すると云ふ理想を立て、進まねはならぬ。

次に綜合課税主義に由る所得税改正の計畫が經濟界の人氣を抑へて其安定を遲延せしむと云ふ反對論は、募債反對論よりも遙かに汎く行はれ、且つ確かに相當の根據のあることは疑を容れない。併し乍ら戦後世界の文明國は擧つて社會大改造の時代に入つて居るのであつて、而も文明國の中で我國はご不公平の税制を有する國はない。故に國民にして苟くも時勢に逆行せざらんとするの覺悟があるならば、所得税改正の如きは戦後最先の機會に於て之を斷行せざるへからざるは、恰も普通選舉制度を最先の機會に於て確立するの緊要なると異ならぬ。從來富者の負擔を甚しく

輕減せる現行稅法を辯護する者は、常に我經濟の歐米に比して幼稚なる重大原因が資本の缺乏に在るか故に、我國は歐米に反して富者の負擔を輕くすることに由り資本の増加を獎勵すると云ふ變則を認めざるへからすと主張した。假りに今日社會改造の機運が動いて居ないとしても、此理由は戰後の今日に於て大に薄弱となれることを認めねはなるまい。特に注意すべきは現行法の下には從來より綜合的に課稅せられつゝある個人事業が時勢の進歩に促され、又其の少なからざる部分は脱稅の爲めに企業形式を株式會社組織に轉換し、戰爭以來特に此趨勢が強くなり、今日國民財産の頗る大なる部分が有價證券化せらるゝに至つた。故に現行所得稅法を維持するときは、今日の富者は以前の富者よりも次第に負擔の割合を輕減せられると云ふ驚くべき時代錯誤的現象を生ずるのである。此の如き不公平は社會的不安の漲れる今日に至ては一日も之を存續せしめてはならぬ。

由來我國の實業家は口を開けは其の實業に従事するとを以て國家公共に奉仕する所以なることを主張し、又彼等は舉つて勞資協調を希望しつゝあるか、若し彼等にして眞に此の如き信念希望を有し、且つ時勢の進歩に盲目ならざる者であるならば、戰後最先の機會に於て斷行せられんとする所得稅改正の精神に進んで同意するの覺悟がなくてはならぬ。富者に對し當然の負擔を減免するにあらざれば我實業界の意氣阻喪して産業の衰退を來たすべしと云ふか如き議論を耳にするときは、何人よりも實業家が先づ之を以て自己を侮辱するの論として反對せねはならぬ筈であ

る。我實業家に此の如き覺悟がなかつたならば、我國の社會改造の前途は暗澹たらざるを得ない。固より負擔公正の精神を實現せんとする政府案の細目には幾多の缺點があるか、此等の缺點に對しては宜しく修正を加ふべきであり、之を理由として全部を否認せんとするは無責任である。又苟くも政府案が社會的公正の上に一大進歩を劃するものと認むる以上は、一般的税制を改革するまで所得税改正をも延期すべしと云ふ論は成立しない。萬般の制度と同じく租税制度も一時に完全を期するを得ざるものであつて、常に一步步改正しつゝ進むの外はない。又所得税改正が國民負擔の不公平を除くに必要なることを許す以上は、其改正に由る増収が軍備擴張等の不當の目的に使用せらるゝことを理由として所得税改正其物にまで反對することも當を得ない。世界を通して社會改造の行はれつゝある今日に於て我國の政友會は所得税改正を主張し乍ら普通選舉に反對することに由り、又在野黨は其の普通選舉の主張の甚た術策的なることの外に、所得税改正に反對することに由り、共に無産者の信用を失はんとしつゝある。歐米に於て無産者が議會政治に對し信用を失へることが、彼等をして直接行動に赴かしめた所以であるは論するまでもない。更に輿論を指導する上に於て今日の新聞紙は政黨に代らんとするの勢があると云はれて居るか、此新聞紙も一般に株式會社組織に由て經營せらるゝか爲め所得税改正には熱烈に反對する。今日の新聞紙上に於て所得税改正に反對する舊時代的記事と社會改造精神の活躍せる新時代的記事とが同一紙面に平氣で同居して居るのは實に奇觀である。